

(公社) 日本給食サービス協会会長賞

『給食革命』

埼玉県さいたま市立大谷場東小学校 六年二組 女子 中島 心彩

四月に男性の栄養教諭さんになりました。今までずっと女性だったので、どんな給食が出るのかなと不安半分、期待半分でした。一学期初めての給食の日、六年間の学校生活で見たことのないおかずが入っていました。友達も先生も、みんなびっくりしていました。今までもずっとおいしい給食でしたが、さらにおいしくなり、何より嬉しいのは、みんなが完食したことでした。給食革命の始まりだと、心の中で思いました。

その日から毎晩、家族に給食の話をするようになりました。三年生の妹と、おいしかったよねと盛り上がることもありました。レシビが知りたいと言う母に、二人で材料の説明、味の説明をしました。そこには笑顔がたくさんあふれていました。

ある日の給食。どう見ても青汁にしか見えない液体が食缶に入っていました。残そうと心の中で決めていました。みんなもそんな雰囲気でした。暗い声のいただきますの後、クラスの子が、「これうまい」と大声で叫びました。私も恐る恐る青汁の様な液体を口にしました。「おいしすぎる」私も叫びました。あちらこちらで、「おいしい」の声が響いていました。そしてみんなとてもいい顔をしていました。

青汁の様な液体の正体は、グリーンピースのポタージュでした。色にびっくりしたけれど、あまりのおいしさにもびっくりでした。ほっぺたが落ちそうって、こういう時に言うのだからって思いました。グリーンピースが大好きな私は、家でグリーンピースのさやむきをしたことがあります。ひとつのさやの中に8粒程がかわいく並んでいて、家族四人分準備するにも、いくつものさやむきをしました。栄養いっぱいだし、今が旬だから、少し高いけれど買ったと、言っていた母の言葉が思い出されます。栄養教諭さんも、今が旬の栄養たっぷりのグリーンピースを、私たちに食べてほしい、味わってほしいと思ってくれたのかな。そしてきつとグリーンピースが苦手な子が多いから、みんながおいしく食べられるように考え、ポタージュにしてくれたのだと思いました。

日本の給食は海外から高く評価されているというニュースを見ることがあります。私達の成長を考え、栄養バランスがしっかり考えられています。友達と協力して配膳をしたり、季節を感じるメニューを頂いたり、多くのことを給食から学んでいます。公立保育園に通っていた私は、毎朝登園時、だしの香りが漂っていて、その匂いが大好きでした。今もだしの香りがすると、おいしかった給食、楽しかった保育園を思い出し、給食が体の一部となっていると感じます。給食が出来るまでに関わってきた人すべてに感謝して、これからも残さず食べたいです。